

《参考》PDCA サイクルを基盤としたキャリア教育の実践事例

事例1 東大阪市意岐部中学校区の事例：小学校に焦点を当てて

東大阪市の意岐部中学校区（幼稚園1，小学校2，中学校1）では，平成16～18年度において「4領域8能力」に視点を置いたキャリア教育を展開した後，平成19～21年度には「夢づくり科」を設けて，中学校区に独自の「3領域10視点」に基づく小中9カ年のキャリア教育を推進している。ここでは，平成19年度における立ち上げの経緯と，平成20年度におけるPDCAサイクルに基づく評価の活用という点を中心に取組の概要を紹介する。

1. めざす子ども像と「3領域10視点」(Plan)

意岐部中学校区では平成16年より校種間連携によるキャリア教育に取り組んできた。取組の方向性を確実に共有するため，小中学校の教員が協議を繰り返し，平成19年からは「自分の夢・生き方を創りつづける子」を中学校区共通の目指す子ども像とすることが定められた。キャリア教育が学校区の理念・目的との関係で明確に位置付けられたといえる。

次に，このような子どもに育てていくには，どのような力を身に付ける必要があるのかという点について議論が重ねられた。その結果，さまざまな教育活動をとらえるための独自の枠組みとして，「3領域10視点」がつけられた。表に示したように，「感性としてのキャリア」「態度としてのキャリア」「能力としてのキャリア」の3領域からなる10の視点である。学校区の特徴に合わせて，児童生徒が身に付ける力の枠組みを示した事例といえる。この枠組みに基づいてさまざまな教育活動が点検され，各学年で実施していく教育内容が計画された。評価も学年ごとに必要な時期を検討し，年3～5回の実施が年間計画に盛り込まれた。

表4-6 意岐部中学校区における「3領域10視点」

領域	10の視点と到達目標設定
感性としてのキャリア	【すこやか】すべての領域・視点のベースとなり，この先の人生を心身共にすこやかに生きていくために「生き抜く力」を身につける
	【自分大好き】様々な状況におかれた子どもたちが，自分自身を見つめ，自分のルーツに誇りを持ち，自尊感情を育む
	【感じる】自然や生き物などから命の尊さを感じとり，芸術などから感性を豊かにし，他者とのふれあひから共感する心を育てる
態度としてのキャリア	【つながる】日々の集団生活や出会いの中から様々なことを学び，協力・信頼する心を育み，自分のルーツや生活を語り合える集団に成長する
	【きっちり】社会性（期限を守る・時間を守る・整理整頓する・適切な言葉遣い・人との信頼関係をつくるなど）を身につける
	【じっくり】目標を持って，粘り強く取り組んでいく
能力としてのキャリア	【やってみよう】苦手なことでも，チャレンジしていける力を育てる
	【学ぶ】自分の生き方・考え方につなげることを，子どもが意識して向き合い吸収する
	【考える】自分の夢や生き方を思い描き，それに向かって計画を立てたり，設計する力を育てる
	【選ぶ】自分が生きていく上で，何かを判断するときに「～でいい」という消去法や人に流される決め方ではなく「これがいい」という主体的な選択ができる力を育てる

東大阪市意岐部中学校区「平成21年度研究開発実施報告書」より作成

2. 「夢づくり科」を中心とした取組 (Do)

道徳，特別活動，生活科，総合的な学習の時間が「夢づくり科」（平成19年度は「キャリア科」）にあてられ，この「夢づくり科」を中心としながら，すべての教科と連携したキャリア教育の実践が学年ごとに行われた。ここでは取組内容の詳細は省略するが，たとえば平成20年度の意岐部小学校6年生では「夢づくりマップで自分を探ろう」（4～7月），平和学習を含む「12歳の卒業論文」（9～3月）が取組の中心となっている。また，意岐部東小学校6年生の場合は，国語科における「マザーテレサ」（6月）を事前学習として位置付け，一連の平和学習「絆・仲間～あなたが励ましてくれるから～」（9～3月）を中心とした取組を行っている。「夢づくり

科」だけでなく、すべての教科にキャリア教育の視点を盛り込み、連携している点が注目される。

3. 「3領域10視点」に合わせた評価(Check)

評価の実施に先立ち、評価の指標づくりが行われた。取組の実践が「3領域10視点」に基づいて行われていることから、評価項目もこれに合わせてこととし、やはり小中学校の教員が協議を行って案を作成した。各視点5項目の計50項目を作成し、予備調査を実施した後に、各視点3項目の計30項目を用いることとした。尺度の作成にあたってはアドバイザーが協力して因子分析を行い、教員と協議して項目を決定した。

表4-7 「3領域10視点」に対応した評価項目 (小学生版)

視点	評価項目
すこやか	好き嫌いなく食事がとれている 物事に積極的に取り組むことができる 人のやさしさ、あたたかさを感じることができる
自分大好き	好きなことがある 自分の学校が好きである 自分には良いところがある
感じる	人と話すことが好きである 絵をかいたり、本を読んだり、音楽をきいたりすることが好きである 自分の気持ちや考えを人に伝えることができる
つながる	新しい人間関係(友だちなど)をつくることのできる 自分のなやみを話し合える友だちがいる 自分とはちがった意見がわかる
きっちり	ていねいな言葉を使うことができる あいさつができる 地域での活動やボランティア活動に積極的に参加することができる
じっくり	目標に向かって、続けて努力することができる 家庭学習にじっくり取り組むことができる ひとつのことを最後までやりぬくことができる
やってみよう	係や当番の仕事を進んで行うことができる 委員会活動やクラブ活動に積極的に参加することができる 失敗をおそれず、チャレンジすることができる
学ぶ	学んだことを活かすことができる 知らないことを知った時、うれしい 調べたことを整理し、まとめることができる
考える	いろんな仕事について考えることができる 将来の夢や希望を思いえがくことができる 学んだり、体験したことから普段の生活をふり返ることができる
選ぶ	自分が選んだことを最後までやり切ることができる 自分の将来のことを考え、目標とする人物や仕事を考えることができる 将来の自分の目標とする人を考えることができる

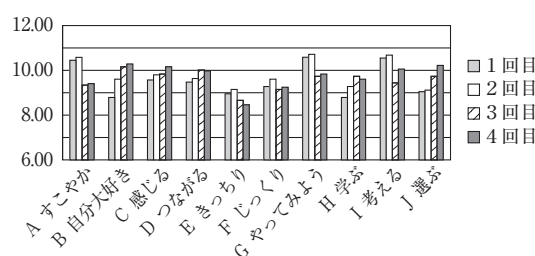


図4-9 意岐部小学校6年生の評価結果 (平成20年度)

上記は意岐部小学校6年生の評価結果であり、学年の平均値を示している。評価は1学期(6・7月)と2学期(9・12月)に2回ずつ行われたが、1・2回目は「夢づくりマップ」制作の前後、3回目は平和学習「ヒロシマ修学旅行」の前、4回目は「12歳の卒業論文」「めぐりあい」活動の後で実施された。それぞれの得点は上昇したり下降したりしているが、1回目と4回目を比較すると、「自分大好き」「感じる」「つながる」「学ぶ」「選ぶ」の5視点は得点が増加し、「すこやか」「きっちり」「やってみよう」「考える」は得点が減少していた。

4. 評価結果の検討と今後の取組(Action)

意岐部中学校区ではキャリア教育の取組にあたり、評価部会(各校1名)を設置している。上記の評価結果について、評価部会で検討を行った。得点が増加した5視点は、6年生の取組の中で児童が身に付けてほしい力や考えてほしい事柄を反映しており、「夢づくり教育」の成果であることが確認された。検討の結果を踏まえ、現在のプログラムを継続していくこと、得点が低下した4視点については、これを高める新たな取組を積極的に進めていく必要があり、今後の課題であることが確認された。また、得点が著しく低い若干名の児童については、さまざまな問題を抱えていることから、個別にケアしていくことも確認された。